

シンポジウム 「福島を除染と除染廃棄物の未来」

福島第一原子力発電所の事故から、まもなく4年が経過しようとしています。しかし、放射性セシウムで汚染された大地の除染は継続されていますし、フォローアップ除染なるものも散見されます。これらの除染作業で発生した廃棄物は、仮置き場を経て中間貯蔵場に運ばれる予定になっていましたが、まだ実施に至っておりません。除染廃棄物のボリュームは膨大で減容化の必要性が叫ばれていますが、様々な試験が実施されているものの、どのような減容化技術が適用可能なのか明確に示されているわけではありません。

日本原子力研究開発機構（JAEA）と物質・材料研究機構（NIMS）は、仮置き場や中間貯蔵の安全性評価や減容化のための研究を行ってきました。本シンポジウムでは、下記のように、減容化の内容に絞って議論し、福島を除染と除染廃棄物の未来について考えていきたいと思えます。

記

期日：平成27年2月6日

時間：9：00－12：30

場所：北海道大学工学部A棟101会議室

プログラム：

9：00

開会の挨拶（北大 佐藤 努）

9：05－9：30

JAEA-NIMSによるセシウムプロジェクトの概要（JAEA 矢板 毅）

9：30－10：00

除染廃棄物の減容化のための分離・分級（宮崎大 伊藤健一）

10：00－11：00

特別講演－分けるってわけない－選鉱技術の基礎（北大・伊藤真由美）

11：00－11：30

質疑応答

11：30－12：00

福島の現状と除染・減容化技術（国際農林水産業研究センター 万福裕造）

12：00－12：30

除染の費用と効果（産総研 保高徹生）

閉会の挨拶（NIMS 山田裕久）

お問合せ：工学研究院環境循環システム 佐藤努（6305）